

「復興農学会」事務局会議（第 51 回） 議事録

文責 佐伯 爽（福島大学）

日時 2022 年 10 月 26 日（水）18 時 15 分～19 時 20 分

方法 Zoom による Web 会議

出席者 溝口 勝（東京大学）、杉野 弘明（同）、黒滝 秀久（東京農業大学）、菅原 優（同）、大川 泰一郎（東京農工大学）、安達 俊輔（同）、小倉 振一郎（東北大学）、石井 秀樹（福島大学）、横山 正（同）、佐伯 爽（同）
（敬称略）

議事録（案）

1. 学会誌・編集委員会関係について（横山）

横山 特任教授より、第 3 巻第 1 号（2023 年 1 月発行予定）の投稿・審査状況について報告があった。

生源寺 会長からの投稿予定があること、学生からの投稿が複数件予定されていること、11 月以降、会員に再度投稿を呼びかけること等の報告があった。

黒滝 教授より、首長のインタビューの連載についてスケジュール化したらどうかとの意見があり、編集委員会で検討することとなった。

2. 規程等の整備について【資料】（新田／代理・石井）

石井 准教授より、福島大学の事務局で検討された「復興農学会 幹事および監事選考要領（案）」および「復興農学会 学会賞規定（案）」について紹介された。なお、復興農学会会長および副会長は幹事の中から選ばれる（会則第 6 条）ため、幹事を選出する必要があること、監事と幹事はかねることが出来るが、独立して選出する必要があることが説明された。また、「学会賞規定（案）」については、多くの学会で学会賞規定が設定されていることから、本学会でも設定したいことが報告された。

「復興農学会 幹事および監事選考要領（案）」については、黒滝 教授より、10 名連記式で選出するのか、1 名ずつ 10 名分選出するのか、明確にした方がよいとの意見があった。

「学会賞規定（案）」については、各出席者より、論文数が少ない現状においては、復興農学会論文賞、復興農学会優秀発表賞、復興農学会貢献賞から先行して規程を制定し、論文数が充実した段階で、今回示された復興農学会賞なども増やしてはどうかとの意見があった。

以上の意見をもとに、事務局で原案を修正し、11 月の本会議で再度検討することとなった。

3. 研究会の開催について【資料】（新田／代理・石井）

石井 准教授より、福島大学の事務局で検討された「復興農学会研究会 総会実施（案）」について紹介された。

黒滝 教授から、浪江町で実施する場合には、開催場所の調整などについて斡旋することは可能であることが報告された。一方、各出席者より、利便性の面や生源寺 会長が基調講演を行うことを考えると、福島大学で開催する方がよいのではないかとの意見があったとともに、一般講演が午前中のみでは時間が不足することから、3 月 17 日および 18 日などとして、2 日間でスケジュールを組み立てると良いのではないかとの意見があった。

以上の意見をもとに、事務局で原案を修正し、11 月の本会議で再度検討することとなった。

4. 会費の納入状況について（新田／代理・石井）

石井 准教授より年会費納入状況について報告があり、2022 年度年会費として 66 名から、2023 年度年会費として 3 名から納入があったことが報告された。

溝口 教授より、納付された年会費の会計報告が必要になるとの意見があった。また、各出席者より、未

納付の方に、どのタイミングで再度納入のお知らせするか検討する必要があるとの意見があった。

5. その他

(1) 東北大学 次世代食産業創造センター開設シンポジウム（小倉）

小倉 教授より、東北大学次世代食産業創造センター開設シンポジウムが下記のように開催されることが報告された。

日時：2022年11月11日（金）13:00～17:00

開催形式：東北大学 青葉山新キャンパス 青葉山コモンズ（現地会場）・
Zoomによるハイブリッド開催

参加申込：下記フォームよりご登録（締切：11月7日（月））

<https://forms.gle/EkJ7YNYXcDFi7K4q9>

(2) 日本農学会 2022 年度シンポジウムについて（溝口）

溝口 教授より、日本農学会シンポジウムにおいて、「地域バイオマスを活用した堆肥づくりと除染後農地土壌の肥沃度向上」というタイトルで、講演を実施したことが報告された。

。

(3) 「サマースクール」等の実施について（新田／代理・石井）

「サマースクール」等の実施について、継続して審議され、以下のような参考意見があった。▼高校生30名を対象とした飯舘村の実地研修では、川俣町の体育館を宿泊施設として利用した。飯舘村まで20分程度で利便性が良く、「サマースクール」でも宿泊場所として使用可能かもしれない（溝口 教授）。▼第一回目は規模は小さめであっても、次年度につながる形で実施するのがよいのではないかと（黒滝 教授）。

2023年8月下旬をめどに、2泊3日程度のプログラムを実施することができないか、本会議において継続審議することとした。

(4) 本会議の今後の開催日時について（新田／代理・石井）

石井 准教授より、「伝助」で日程調整をした結果、11月以降は、毎月第4月曜日18時00分から1時間程度として実施することが報告された。

(5) その他

杉野 助教より、日本農学会加盟学協会調査票について、作成を求められていることが報告された。2023年度の日本農学会運営委員を決める必要があり、杉野 助教が継続して担当することが提案され了承された。

今後の予定

- ・事務局会議（第52回） 2022年11月28日（月）18時00分から
- ・事務局会議（第53回） 2022年12月26日（月）18時00分から
- ・事務局会議は当面、毎月第4月曜日 18時00分から1時間程度開催。